

田淵幸一 & 東尾修の ガチンコ試打!

本当にプライベートでも使ってもらえるのか!?



初対面で
相性ピッタリの
女に出会った感じ。
田淵幸一 (71)
野球評論家

力を入れずに
これだけ飛ばねば
ゴルフが楽しだね。
東尾修 (67)
野球評論家

「いや、ぶっさん。今のは30ヤードは置いていっているでしょ(笑)。でも、これボールも上がりやすく、軽く振ってこれだけ飛ばばいいですね。力まないから、方向性もブレない」

道具の進化はゴルフを長寿にする

セカンド地点に到着。ロングホールなので田淵氏のボールでグリーンまで約250ヤード。東尾氏のボールだと約220ヤード、2オンも可能だ。二人

西武ライオンズの黄金時代を支えてきた田淵幸一氏と東尾修氏。ゴルフ場で顔を合わせるのも久々である。「最近ゴルフはどうよ?」と田淵氏。「いやあ、腰の手術をしましてから、すっかり飛距離が落ちましたね。ぶっさんは?」「俺もだよ。最近バックティーを遠慮するようになったよ」そんな二人に話題の超反発ギア、ゼウスインパクトを試してもらった。果たして広告で言わされるのではなく、本当に気に入って使ってもらえるようになるのか。ガチンコ試打のスタートだ。

現役時代の飛びが帰ってきた

まずは田淵氏から。2〜3回素振りをしただけで、いざ本番「練習もしないで、いきなりか!!?」でもホームランバッターの意地だ、見てろよトンビ」ジャストミートしたボールは、甲子園でのホームランを彷彿させるような大きなアーチを描き、フェアウェイセンターへ。

「ほう、気持ちよく飛ばねえ。最近230〜240ヤードくらいしか飛ばないんだけど、それを超えているよね」

田淵氏の飛距離は、255ヤード



↑ゼウスインパクト(ドライバー)
反発係数0.851、他を圧倒する超反発ヘッド。体積は485mlと大型で、スイートスポットが広い。軽量で、振りぬぎやすい長尺シャフトを装着。異次元の飛びを生む。
www.kouhanpatsu.com

「初対面で相性ピッタリの女に出会った感じだね。この高反発クラブとボールのマッチングもいい。合格です」

続いて東尾氏。「ふだんは12・5度を使っているから、10・5度だと上がらないんじゃないかな」という心配をよそに、こちらも腰を痛めているとは思えない豪快なスイング。ハイドローの弾道で、キャリーで田淵氏のナイスショット付近に落下、飛距離は280ヤードに達した。それを見た田淵氏「やっぱりゴルフはピッチャーのほうが飛ばよね。ボールを投げる動きがスイングと共通するのかな。年齢も4歳違うからいつも15ヤードほど置いていかれる」



田淵幸一 [野球評論家]
1968年ドラフト1位で阪神タイガース入団。1975年ホームラン王。大きく美しい放物線を描くホームランの軌道から「ホームラン・アーチスト」と呼ばれる。1979年西武ライオンズに移籍。1982年、1983年の日本一に貢献。



ゼウスインパクト(ボール)
ボール初速をアップさせる超反発ボール。42mmのsmallサイズで空気抵抗を減らし、アゲンストにも強い。3ピース構造だから、打感もいい。↓

は、距離的には届いていたものの惜しくも右にこぼれる。こちらにもアプローチで寄せて難なくバーディー。2人とも3オン1パットとご機嫌なバーディスタートだ。

「道具は進化しているんだから、歳を取ったら楽に打てるク

ラブがいいよね。そのほうが長く楽しめる」と田淵氏。

「僕の目標は、80歳になつたときにカートを使わず歩いてラウンドすることなんです」と東尾氏。

「そのためには健康第一。このゼウスインパクトでお互いあと10年はがんばろうよ。あ、そうそう、週末は宮崎でラウンドだから、このセッティングで送ってくれる」「僕もこのセット持って帰るよ」

どうやらすっかりお気に入り。プライベートでも使ってくれるようだ。



東尾修 [野球評論家]
1968年ドラフト1位で西鉄ライオンズに入団。デッドボールが多いところから「ケンカ投法」と言われる。通算251勝。引退までリーグ優勝6回、ライオンズの黄金期を支える。娘はプロゴルファーの東尾理子。



旧友であり、時にはライバルになる。ゴルフはそこが面白い。

個性的なキャスコのクラブラインナップ



- ※田淵氏・東尾氏の今回のセッティング
- ゼウスインパクト 1W フレックスSR 10.5度
 - TARO 3W / 5W フレックスS
 - パワートルネード U3・U5・U7 フレックスS
 - TARO アイアン#5~PW
 - ドルフィンウェッジ 52度 / 58度
 - パター Red9/9(アカバタ) マレットタイプ

提供 / キャスコ株式会社 高反発 Div. ☎0120-371-562